



まほろん大人の塗り絵

法正尻遺跡大木7b 式期のムラ

上は、磐梯町と猪苗代町にまたがる法正尻遺跡にあった、縄文時代中期のムラの推定画です。約 5,200 年前の姿を描きました。

遺跡の南東上空から北西方向を見えています。この頃になると、遺跡東側の窪地を中心に複数の竪穴住居が建てられ、住居群の南側は広場となります。各竪穴住居には、貯蔵穴が伴い、少し離れて土饅頭状に描いた墓跡と考えられる土坑が墓域を形成します。

住居跡群の西側には、斜面を登っていった先に貯蔵穴が群をなす空間があり、ムラの備蓄食料が蓄えられていたと考えられます。住居跡群から北側にのびる道は、法正尻湿原へと続いています。

その他に、この絵には、土器づくり、埋葬風景、貯蔵穴掘削、住居建設、狩りからの帰還などのシーンが描かれていますので、探してみてください。